

平成30年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(瑞穂野地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

## 平成30年度 第2回 まちづくり懇談会《瑞穂野地区》実施結果報告書

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《瑞穂野地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成30年7月5日（木）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 瑞穂野地区市民センター
- 3 参加者数 73人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，  
瑞穂野地区市民センター所長，道路管理課長，  
広報広聴課長

### 5 懇談内容

#### （1）地域代表あいさつ

瑞穂野地区連合自治会，瑞穂野地区まちづくり協議会 会長

#### （2）市長あいさつ

#### （3）地域代表意見

No.	テ ー マ	所 管 課
1	日中の災害時にも対応できる消防団制度の構築について	消防局総務課
2	「瑞穂野地区福祉のまちづくり計画」の策定と推進について	高齢福祉課

#### （4）自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	L R T導入後の瑞穂野地区の公共交通と，宇都宮駅前へのモニュメント設置について	交通政策課，L R T企画課 駅東口整備室，市街地整備課
2	「みずほの緑の郷」区域の住居表示の実施について	市民課
3	市道446号線の歩道整備について	道路建設課，文化課
4	高齢化社会に対する公共交通の整備について	交通政策課，L R T企画課

#### （5）来賓あいさつ

地区居住市議会議員 金子 和義氏

#### （6）市長謝辞

## ■地域代表意見 1 (要旨)

<b>テーマ</b>	<b>日中の災害時にも対応できる消防団制度の構築について</b>
------------	----------------------------------

瑞穂野地区には「消防団」が組織されているが、団員の殆どが勤めており、仕事をしながら、消防団という重要な職務を全うしている。しかし、日中に火災が発生した場合に対応できない。

5～6年前に地区内で火災が起きた際、近くに消防小屋や消火栓もあったが、消防団員は勤めていて地域におらず、平石分署からの消防車が到着するまでの10～15分までの間、我々は何もすることが出来なかった。地域内に消防団OBはいたが、何もすることは出来ない。

そこで、消防団のOBを活用した制度の構築を提案したい。消防隊員や消防車が来るまでの間に、スムーズな消火活動が出来るように、ポンプを引っ張り出しておくなど、準備の体制は出来ないだろうか。

難しい問題だとは思いますが、考えを聞きたい。瑞穂野だけでなく宇都宮全体のことだと思っている。

<b>回答</b>	<b>所管課： 消防局総務課</b>
-----------	--------------------

【市長】

市においては、常備消防として、4消防署（中央・東・西・南）と、9消防分署があり、総勢職員数は454名である。地域全体の災害に即時対応できる消防出動態勢を構築し、工業団地における化学的な対応もふまえた化学消防自動車を含め、それぞれの地域にあった消防体制、万全な体制を整えている。

瑞穂野地区の消防団においては、消防操法大会において好成績を収めるなど、歴史と伝統とそして、力ある消防団であると高い評価を受けている。

消防団の皆さんには、火災予防のための空き家や空き地の枯草調査、夜間巡回など、地域に密着した活動を行っていただいている。そのためにも、市では、消防団活動に対し支援をするとともに、研修または訓練を行っており、「基本団員」の確保に努めたい。

宇都宮市全体の消防団員の充足率というのは90%を超えており、瑞穂野地区においても、充足率約92%だが、これから人口減少を考えると、なるべく多く消防団員を確保してまいりたいと考えている。

御提案された制度については、消防団員の確保策のひとつということで大きな効果があると思う。

災害時における役割や、指揮命令系統、消防団員と準消防団員の処遇についてはどう考えていくのか、さまざまな課題を整理しなければならないと思うが、すばらしい提案であるので、まずは消防団員の皆さんに話をし、意見を伺いながら調査・研究していく。

## ■地域代表意見 2 (要旨)

テーマ	「瑞穂野地区福祉のまちづくり計画」の策定と推進について
-----	-----------------------------

当計画の策定は、宇都宮市の、優しさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画と宇都宮市社会福祉協議会の地域福祉活動計画に基づき、平成27年度に平石・河内・瑞穂野の3地区がモデル地区に選定されたことに始まる。

平成28年8月末に、福祉のまちづくり計画策定準備委員会を立ち上げ、平成29年9月に策定委員会として本格的に活動を開始し、瑞穂野地区住民80名による住民座談会の開催や、3,200世帯を対象に住民アンケート調査を実施するなど、地区住民の様々な意見や要望を反映し、平成30年3月に計画が完成、6月に全世帯への配布が完了した。

まさに、地域のみんなで力を合わせて作り上げた計画である。6月27日に、計画の推進母体となる「瑞穂野地区福祉のまちづくり推進委員会(愛称:ふくまち委員会)」を立ち上げ、今後は、各自治会・各種団体・委員会等と連携しながら、オール瑞穂野で各施策を推進したいと考えている。

市におかれましても、例えば、高齢者が日常生活で困った時に様々なサポートを受けられる体制の構築など、実効性のある仕組みづくりをお願い出来たらと考えている。

回答	所管課： 高齢福祉課
----	------------

【市長】

福祉のまちづくり計画については、4地区をモデル地区とし、そのなかで瑞穂野地区は1番最初にこの計画を作り上げていただき、その行動力に心から感謝を申し上げます。

オール瑞穂野体制で作った計画であり、これが全地域のモデルとして見ていただければいいと思っている。

高齢者へのサポート体制であるが、今、地域包括支援センターが窓口となり、高齢者の身体等の不安をはじめとする相談を受け付けて、ご自宅への訪問等をおして医療や介護などの適切な公的保険サービスに繋げているところである。

また、日常生活の困りごとについては、現在、宇都宮市の財政支援のもとでシルバー人材センターの生活支援サービスなどにより、屋内の整理整頓や買い物援助などの簡単な生活支援を行っているところである。

市は、5月に地域包括ケア推進会議の生活支援部会を立ち上げたところであり、地域の関係者の皆さんが、これからの超高齢社会の実情を「我が事」として捉え、そして地域の支え合い活動について話し合っていたいただき、地域課題の解決に向けて検討するという場である、「第2層協議体」の設置を39地区連合自治会それぞれにお願いしているところである。

瑞穂野地区においては、瑞穂野地区福祉のまちづくり計画を策定していただき、地

域が一丸となって支え合い活動を推進する土台が構築された。

市としても、こうした取り組みと連携してまいりたいと考えている。今後、市の職員を派遣し、他の地区の事例等について情報提供などを行いながら、福祉のまちづくり計画が具体的に推進できるよう積極的に後押しする支援を行ってまいりたい。

## ■自由討議（要旨）

<b>発言 1</b>	<b>L R T 導入後の瑞穂野地区の公共交通と、宇都宮駅前へのモニュメント設置について</b>
-------------	--

### 【L R T 導入後の瑞穂野地区の公共交通】

宇都宮市は本年、L R T の整備工事に着手し、供用開始に向け、着々と事業を推進されているが、L R T が導入されたとき、実際に瑞穂野地区にとってどのようなメリットがあるのか見えない状況にあり、地区内には関係のない話として冷めた声があることも事実である。

L R T 導入により、瑞穂野地区から市中心部をはじめとする各拠点に行く時に、どのように便利になるのか、具体的にお示しいただきたいと考えている。現実的に利用が見込めない交通手段では意味がないので、実現性のある公共交通の構築をお願いしたい。

また、L R T の料金については、今までの話の経過で、400円前後の運賃になるような話で聞いている。少し高いのかなと思われる。バスの運賃との整合性もあると思うが、市民の足と考えるならば、もう少し検討する必要があるのではないかと考える。できれば、200円ぐらいまで下がればと思っている。

平成25年に高知市、平成28年に鹿児島市の市電に乗ってみたが、高知はどこまで乗っても130円、鹿児島は150円だった。非常に安くて、多くの主婦、学生は学割の定期券でかなり乗っていた。宇都宮市でも多くの市民が利用しやすい料金設定にすべきと考える。御検討をお願いします。

### 【宇都宮駅前へのモニュメント設置について】

宇都宮駅前については、東口、西口ともに今後再整備をしていくと聞いているが、再整備に合わせて、例えば、新幹線金沢駅前には二つの鼓のインパクトのあるモニュメントがあるように、栃木県の玄関口であることを大きくアピールしていければと思う。例えば、県と連携し、世界遺産である日光東照宮をモチーフにしたようなモニュメントを設置するなど、国内のみならず、世界に対してアピールすることが、宇都宮市の都市としての価値を高めるためにも効果的であると考えている。御検討をお願いします。

**回 答****所管課： 交通政策課， L R T企画課， 駅東口整備室， 市街地整備課****【 L R T導入後の瑞穂野地区の公共交通】****【市長】**

L R Tの計画は， A地点（桜通り十文字西）から， B地点（ J R宇都宮駅）までが 3キロとなっている。そして B地点から東に行くと， 鬼怒川を渡って清原工業団地， そして隣の町になるが， 芳賀工業団地に入り， ホンダ研究所正門前の C地点で， Bから Cの 15キロとなる。この 15キロをまず優先整備をしていくが， 指摘があったとおり， 関心が薄い， 家の前通らないから関係ない， また， 自分では全く利用するつもりも無いから関係ない， という方が多分いると思う。

しかし， 新幹線に例えると， 1年間に 1回も利用しない方はいると思うが， 新幹線は宇都宮に不要かという点， 新幹線が停まる宇都宮駅のおかげで， 清原工業団地の分譲の早期売却や， また今でも北関東 3 県の支社， 統合支社として宇都宮が選ばれ， 支店や営業所が宇都宮に出来ているところである。

これからは車の運転が出来ない方が増え， 公共交通が必要な状況になるが， 宇都宮にこの L R Tを造って終わりではなく， L R Tが通ることによって， 停留所が 19か所でき， この停留所を利用して， バス路線を縦に作り， それに合わせて幹線のバス路線も， 北， 南と南北に作り， 今までバス路線が無かったところにバス路線を充実させたいと考えている。

西側については， J R宇都宮駅から桜通り十文字あるいは池上町まで 1日約 2， 100本のバスが通っているが， これは， 鉄道のような速達性， 大量輸送の車両が無いので， しかたなくバスが西側を動いている状況である。

駅東側のように L R Tが出来れば， 今まで走っていたバス路線を減らすことができ， その分をバス路線が走っていない空白地域， 不便地域に回すことが出来たり， 1時間に 1本しかないような地域のバスの増便など， そのような効果も生まれてくる。

L R Tの路線を魚の背骨， 長距離を走らなくて済むバス路線を小骨にたとえると， 魚の背骨が通ることによって， 背骨についている小骨のごとく， バス路線を増やすことが出来るようになる。そして， 背骨と小骨の間を， 埋めていくのが， 瑞穂野愛のり号のような地域内交通ということになる。 L R Tが走っているところだけではなく， 宇都宮全域にバス路線を増やし， なおかつ地域内交通を全地区に配備をして， 車が運転できなくてもドア to ドアで乗換えさえすれば移動が出来るという， 街を作っていきたいと考えている。

料金の話をすると， 赤字を出さないように高く取れ， ということになるが， 宇都宮の今回の試算では， この駅東側だけでも， 黒字になる。プラスになった部分は， 地域内交通やバスと L R Tの割引料にも使っていきたいと思っている。

皆さんには交通系 I Cカードを持っていただき， バス， 地域内交通， L R Tを利用してもらいたい。料金については， 1日乗っても 500円とか 600円で頭打ち， 外出しやすい利用しやすい何度でも 1日乗れる， という料金にしていきたいと考えてい

る。

#### 【宇都宮駅前へのモニュメント設置について】

##### 【市長】

駅東口地区整備事業については、野村不動産（株）を代表企業とするグループを優先交渉権者として決定した。

市としては、コンベンション施設の整備をはじめ駅東口地区全体をモニュメントとしていきたいと考えており、優先交渉者からは、交流広場を囲む建物の外壁に大谷石を大胆に使っていただくとともに、サルスベリの植樹や屋上緑化など積極的な緑化を行う提案があったことから、この提案に基づき、地区整備を行ってまいりたいと思う。

今後とも、皆様から様々なご意見を頂戴して、より良い地区整備を進めてまいりたいと考えている。

#### 発言 2 「みずほの緑の郷」区域の住居表示の実施について

みずほの緑の郷自治会は、世帯数550世帯で、町名としては西刑部町と上桑島町と下桑島町の3町にまたがっている。その中で、西刑部町の町名の付く世帯が510世帯あり、現在、整然と区画されているが、郵便物の迷走などが発生している。

自治会では、住居表示に関する法律の趣旨に沿って、街区方式による住居表示の実施をお願いしたいとの意向を持っており、なるべく早く区域内の住所をわかりやすいものに変えていきたいと準備を進めている。つきましては円滑に住居表示をしていくための諸手続きに関して、御指導・御助言をいただくとともに、迅速な住居表示実施に御配慮を賜りたい。

#### 回答 所管課：市民課

##### 【市長】

市としては、住所をわかりやすいものとするために、自治会からの要望があり、道路等が整備をされていて、街並みが整っているという、一定の要件を満たす地域については、道路に沿って建物に順序よく番号を付けていく「住居表示」を実施している。

「みずほの緑の郷」地区については、地域の方々の御要望があるということ、それは郵便物の誤配や、あるいは住所が飛んでいてわかりづらいなど、そういう声を实际いただいているので、地域のみなさんと一緒にこの住居表示については取り組んでいきたいと考えている。

実施にあたっては、要件などの確認や、審議会や議会での審議など、実施まで3年から5年かかる見込みのため、手続き等の詳細を説明させていただき、進めていくことが良いのではないかと考えている。今後、行政と一緒に取り組ませていただければと思う。

### 発言 3 市道446号線の歩道整備について

瑞穂野南小学校の通学路の件で、要望は前から出ているのではないかと思うが、大関街道、大関橋までは、道路と歩道が分かれてしっかりした通学路が出来ているが、そこから西が、道路が狭く歩道も無い。西のほうから小学校に通学している子供が学校へ行く時間帯は、結構、車の通行量も多く、もし事故でもあった場合には、取り返しのつかないことになるかと思う。

できるだけ早く、道路と歩道が出来ればもう少し安全に子供たちも学校に通えるのではないかと思っている。

### 回答 所管課： 道路建設課、文化課

#### 【市長】

道路整備、歩道整備ということになれば、土地買収による道路拡幅ということになり、すぐに出来るということではないが、安全ということを考え、年に1回、学校で通学路の安全検査を行っている。

安全検査での要望、また、今の御指摘などのお声を反映させていくためにも、まずは歩道の設置できるところ、あるいは安全確保ができるような車の滞留場所などを、道路行政担当のほうで、現地確認させていただきたいと思う。

#### 【議員】

この道路は、整備計画が出来ている。一期工事で大関橋から東の区間は、去年終わり、現在、二期工事として、新4号国道から砂田街道の区間で遺跡の発掘調査を行いながら工事を行っている。残りの新4号国道から大関橋までの区間は、二期工事完了後に行うと聞いている。

### 発言 4 高齢化社会に対する公共交通の整備について

市長の冒頭のあいさつの中で、これから高齢化社会になっていくため、公共交通機関をきちんと整備をしていくとの話があったが、その流れの中で、LRTの話で、魚の背骨にたとえて縦に公共交通機関を整備していく話があったが、実際にその交通機関を整備する場合には、民間の活力を活用することだと思う。ただ、その場合に、民間の場合だと採算性がどうしても必要になってくるのではないかと思う。デマンド交通もあるが、いろいろな制約があり、なかなか公共交通機関とのジョイントというか、それが上手くいかない実態がある。

市として、公共交通の整備についての考え方、どのようなイメージを持っているか、具体的にお聞かせいただきたい。



<b>回 答</b>	<b>所管課：交通政策課， L R T 企画課</b>
------------	-----------------------------

**【市長】**

市としては、ネットワーク型コンパクトシティという街をつくっていきたいと考えている。

39地区連合自治会，それぞれの地域が特色あるまちづくりを進めていく。その特色というのは，365日，日常生活に必要なことが自分の地域の中で出来ることである。そこには病院や銀行，郵便局，コンビニエンスストア，そういうものがきちんと整っているものである。

それらを，身近なところから，短距離移動を愛のり号のような地域内交通で結び，中距離をバス路線が担い，そして，背骨の役割の，安定した速達性がある大量輸送できる，JR線や東武線，今まで無かった横軸に，LRTという考えを持っている。

宇都宮全域で公共交通のネットワーク化を図り，東京のように，乗り換えは必要だが移動ができる，車の運転が出来なくても生活が出来る，車が無くとも生活が出来るという街をつくっていく。

例えば，瑞穂野地区からJR宇都宮駅だけではなく，ベルモールやインターパークを通るようなバス路線を増やすなどを考えている。

ここで必要なのは民間の力で，御指摘の通り，民間のバス会社の協力が無いと，この構想は出来ないが，すでにバス会社とはバス路線のあり方の検討を進めている。赤字路線というものを抱えているバス会社も，赤字幅が無くなって，むしろ黒字化していく再編については前向きに考えていただいております，必ず出来る計画であるということをつけ加えさせていただきます。